

## 第5学年 道徳学習指導案

指導者 重森 栄理

- 1 日時 平成18年9月29日(金) 第5校時
- 2 学年 第5学年 22名
- 3 主題名 本当の思いやりとは 2-(2)
- 4 資料名 「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール (東京書籍5年 希望を持って)
- 5 主題設定の理由

- 世の中には様々な人がいる。健康な人もいれば体に障害がある人もいる。障害をもつ人に対して「かわいそう」だから「してあげる」という意識は、健康な人の優越感であって本当に相手のことを思いやっていると考えるのは難しい。障害がある人に対して特別なかわり方が必要なのではなく、同じ一人の人間として尊重し、相手の気持ちを考えて接することが大切なのである。普段の生活においても、親しい友人や知人に対してはやさしく親切に接していても、そうでない場合にはなかなか親切な行動に出られない場合も多い。人と人が社会の中で、相手の立ち場を理解し、自然に支えあうことができれば、すべての人が幸せに暮らせる社会を築くことができるはずである。
- 本資料は、先天性四肢切断という障害をもって誕生した乙武洋匡さんの小学生生活のエピソードの一部である。クラスの友達が「オトちゃんルール」という特別ルールを考え出し、そのことを「ボク」も友達も「あたりまえ」と受け止めて楽しく遊んでいる場面が描かれている。クラスの友達は「ボク」が障害者でかわいそうだから一緒に「遊んであげる」ために特別ルールを作ったのではなく、「同じ友達として」一緒に遊びたいし、オトちゃんはクラスの仲間だから一緒に遊ぶのは「あたりまえ」と考えていたのである。それは、障害の有無にかかわらず同じクラスの仲間として(人間として)、一緒に遊ぶのは当たり前だし、ケンカをするのも当たり前という考えである。学級の友達に本当に親切にするとはどういうことか考えさせる良い資料である。
- 本学級の児童は、ライフタイムで「びいばぶ」作業所の方との交流をした時、どのように接したらよいかとまどっていた児童も多かった。初めて障害を持つ方と接した児童も多く、気の毒だから何か親切にしてあげなければという同情心をもって行動している児童も見られた。そんな中、相手の思いを確かめながら行動したり、一緒に活動を楽しんだりする児童もいた。また、普段の生活においては、友達と対等な関係に立って親切な行為を当たり前のようになっている児童も数名いる。

道徳の学習においては、大変意欲的に取り組んでいる。物語文を聞き、考えることが好きな児童が多い。また、発表はあまりしないが、友達の考えを聞くことが好きで、そこから自分の考えを持っている児童もいる。さらに友達の考えに流されたり、すぐに納得してしまう児童も多く、揺さぶりをかけることも多い。話し合い活動においては自分の立場を明らかにして発言することや、書いたことをもとに、友達の考えと重ねながら発言することを指導してきている。
- 本時の指導にあたっては、ルールを工夫した心情を「あたりまえ」と「かわいそう」をキーワードにしっかり話し合わせたい。そうすることで、「あたりまえ」から工夫されたルールは、工夫された方もした方も両方が気持ちがいいということに気づかせたい。そして、本時の学習から学んだことを実生活に生かす意欲に結び付けたい。さらに、心のノートを読み聴かせることで、児童の心の中に本時の学習を印象づけたい。

6 研究主題との関わりと授業のポイント 命を大切に作る心もち、生き方を創る子どもの育成  
感動と充実感のある授業づくりのために

- ☆ ①友達の考えの良さを発見したり、共感させたりするようにさせる。
- ☆ ②心のノートを静かに読み聴かせ、本時の学習を印象付ける。

7 本時のねらい オトちゃんやオトちゃんのクラスの仲間の気持ちを考えることを通して、相手の立場に立った本当の思いやりの気持ちを持つようとする態度を育てる。

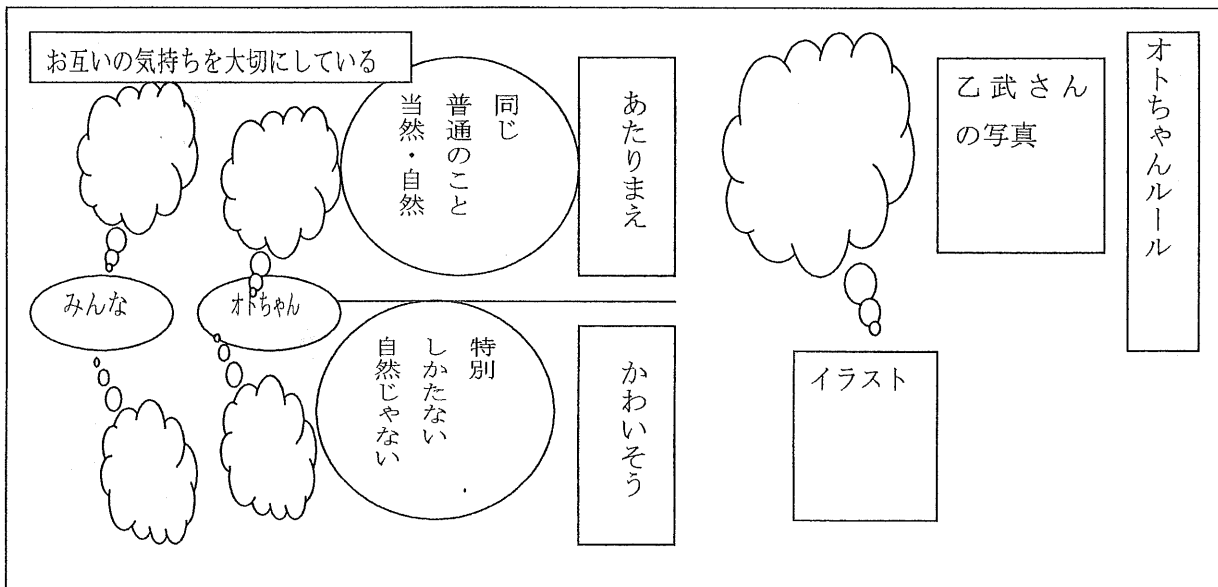
8 準備物 乙武氏の写真、VHS「乙武レポート」(日本放送)、ワークシート、CD

9 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問 (○と◎) と 予想される児童の心の動き	指導上の留意点 (☆) 評価の観点 (★)
導入 4分	1 乙武洋匡氏の紹介を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ この人を知っていますか？ 乙武さん。生まれたときから手足がありません。</li> <li>○ 乙武さんが小学生時代に休み時間はどんなことをしてすごしていましたでしょう。 ・ 絵をかく・野球をして遊ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 拡大した乙武氏の写真を提示する。</li> <li>☆ VTRを通して、元気で活躍している様子を見せる。</li> </ul>
展開前半 26分	2 資料を聞いて考え、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ オトちゃんが、みんなと同じように休み時間が一番楽しかったのはどうしてでしょう。 ・ みんなが遊びを工夫してくれたから。 ・ 一人ではなくみんなで遊べたから。</li> <li>○ クラスのみんなはどんな気持ちで『オトちゃんルール』を考えたのでしょうか。 ・ オトちゃんも遊びの仲間に入れよう。 ・ オトちゃんが本当にできることと、無理なことを考えて、体が不自由だからとか関係なく遊べるようにしたい。 ・ それが当たり前だと考えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆ 児童の考えを深める補助発問をする。</li> <li>① どんな工夫？ ・ ホームランの位置 ・ サッカーの3点 ・ ドッチボールの近くへ</li> <li>② どうして工夫してくれたら楽しいの？ ・ みんなと一緒に遊べるから。</li> <li>③ どうしてみんなと一緒に遊ぶと楽しいの。 ・ ひとりじゃさびしい。</li> <li>④ オトちゃんはみんながどんな気持ちで工夫したんだと言っていましたか。</li> </ul>

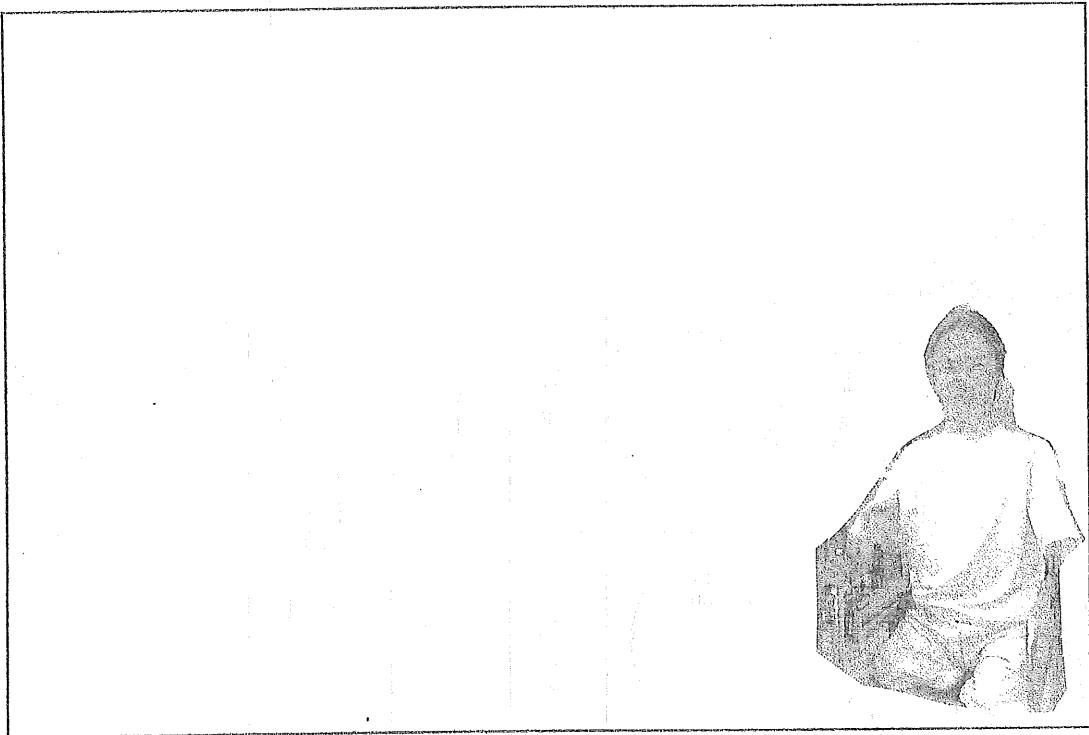
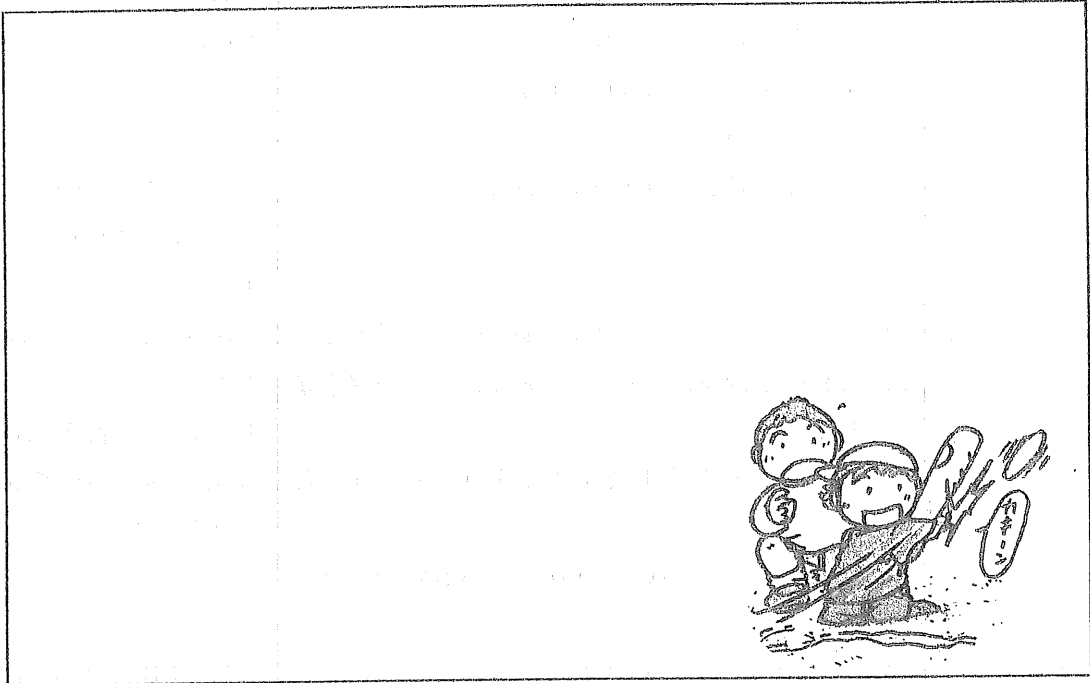
		<p>◎『かわいそうだからいっしょに遊んであげよう』という気持ちと『クラスメートだからあたりまえ』という気持ちはどちらがうのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわいそうだからというのは、ほんとは別に遊びたくはないのだけど、何か入れてあげないとかわいそうという感じ。</li> <li>・当たり前というのは、一緒に遊びたいから。きっとみんなで遊ぶと楽しいから。</li> <li>・特別な感じと自然な感じ。</li> <li>・本当にオトちゃんの気持ちを考えているのたそうでないの。</li> <li>・対等な感じとそうでない感じ。</li> </ul>	<p>⑤オトちゃんはどんな気持ちかと思いませんか？</p> <p>⑥みんなはどんな気持ちかと思いませんか？</p> <p>⑦友達の発言の中で、なるほどなあ、と感じたのはどれですか。</p> <p>★友達の考えの良さを発見したり共感したりしているか。</p>
展開後半10分	3自分の生活を振り返る。	<p>○心のノートP36・37を聴いてください。</p> <p>○今日の学習を振り返って、考えたことを書きましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達に自然にやさしくできるような人になりたいな。</li> <li>・するもの、されるのもうれしいおもいやりっていいな。</li> </ul>	<p>☆BGMを流して雰囲気をつくる。</p> <p>★今日の学習を前向きにとらえこれからの生活に生かそうとしているか。</p>
終末5分	4友達の考えを聞く。	○友達の考えを聞いてみましょう。	☆BGMにのせて読む。

10 板書計画



道徳カード『オトちゃんルールはあたりまえのルール』

9月29日



12 資料 (心のノート P36・P37)

ともに生きる

わたしの笑顔にこたえてくれるあたたかさ。

わたしのなみだをつつんでくれるあたたかさ。

そんなきみのぬくもりが

わたしの心をあたためてくれる。

スポーツが好きなきみと

読書が好きなわたし。

カレーライスが好きなきみと

スパゲティーが好きなわたし。

こんなにもちがうきみがくれる

心のぬくもり。